碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可

神奈川　碩心会　発行

62年10月分（183号）
発行者　根岸岳萃
編集者　中村愛岳

62年10月現在会員数

逗子地区	175名
葉山地区	277名
大船地区	61名
（合計）	（513名）

偶感

根岸　岳萃

……「何か面白い事は無いかねえ」「無いねえ」さう言って了って口を噤むと、何かなしに焦々した不愉快な気持が滓の様に残る。恰度何か拙い物を喰った後の様だ。そしてその後では、もう如何な話も何時もの様に興も引かない。好きな煙草さえ甘いとも思はずに喫ってる事が多い。

時として散歩にでも出かける事がある。然し、心は何処かえ行きたくっても、何処といふべき的が無い。世界の如処かには何か非常な事がありさうで、そしてそれと自分とは何時まで経っても関係が無ささうに思はれる。しまひには、的もなくほっつき廻って疲れた足が、遣場の無い心を運んで、再び家へ帰って来る事になる。まるで、自分で自分の生命を持て余しているやうなものだ。何か面白い事は無いか！

それは凡ての人間に流れている浪漫主義の嘆声だ。さう云えば、さうに違ひない。然しさう思ったからとて、我々が自分の生命の中に見出した空虚の感が、少しでも減ずる訳ではない。私はもう、益々無い自己の解剖と批評にはつくづく飽きて了った。

……　啄木集〝硝子窓〟の一節より

私も全く同感だ。面白いこと、楽しいことでも、待っていてあちらから来るものではない。自分で造り出さなければならないはずです。幸に我々には吟道と云う楽しみがあります。そして楽しみながら、先賢の遺された立派な詩歌に接しつゝ、自らを修めて行くことが出来るのです。多くの吟友に接し、楽しく充実して吟道に励むことこそ健康の秘訣ではないでしょうか。

◎行事予定

◇第37回逗子市文化祭　詩吟詩舞発表会　11月22日(日)　逗子図書館ホール

◇第21回葉山町文化祭　詩吟詩舞の会　11月3日(祭)　葉山小学校体育館

◇県本部高段者（十段）講習会　11月22(日)(日)　午前
〃（八段）　午後　平塚農業会館

◇県本部高段者　11月23日(祭)
〃（皆伝以上）　平塚農業会館

第92回全国大会

神奈川県本部吟行会

（第一日目）　　木村　松風

九月十二日朝、雨模様の天候下、常盤本部長以下県本部役員及び有志会員164名は、県下各地から続々と羽田空港に集う。途中、首都高速の渋滞でいらいらムードの中、集合一時間前には殆んどの参加会員が揃って各車輛毎に、その車輛長の掌握下に入った。これも掌握しようという役員と、迷惑を掛けまい、心配を掛けまいとする会員の心が互いに通じ、出発時から団結の良さが感じられた。

全員が集合した処で、本部長から「今回の吟行会が楽しい中にも規律あるもので、且、意義ある旅行である様、協力を願い度い」との挨拶があり、定刻の9時55分、全日空宮崎行に整然と搭乗した。フライトは雨天の為視界悪く、全く雲中の飛行であったが平穏に定刻11時50分に宮崎空港に安着。

待期していた四台のバスに分乗して、青島観光ホテルに入り昼食、13時四台のバスを連ねて鵜戸神宮に向って出発。堀切峠あたりから陸続する鬼の洗濯岩の奇岩を見乍ら更に南下し、途中サボテン園を右に窓見し、左にイルカ岬を望見し鵜戸神宮入口に到着。ここからは小雨降る中、傘をさして洗濯板と同種の石段を下って洞窟内に鎮座する本殿に参詣し、明日の全国吟道大会の盛会を祈った。中には乳岩を撫で、乳飴を喰べて祈ったり、運の石を沖の大岩の岩壺に投げ入れて（左手に限る）占ったり、或いは朱の欄干を背景にさかんにスナップを撮ったりしてバスに帰り、16時青島観光ホテルに帰着した。

夕食までの時間を利用して、雨も小止みとなったのを幸として、青島神宮まで散策した人が多かった。偶々干潮で、陸続きに青島へ渡れたのはラッキーで、奇岩をバックにしきりにシャッターが切られていた。

18時ホテル大広間に於て、全員揃ってまず男性の「神州」と女性の「常盤孤を抱くの図」の合吟、次いで合吟コンクールに出吟する横南吟道会の女性十名の合吟練習があり、漸く本部長のOKが出て、明日の健闘を祈っての乾杯の後、会食、懇談に入った。20時30分頃、明日の大会に備え、自然流会の形で、各自割当てられた部屋に帰り、早目に就寝した。

（第二日目）　　松井　正風

九月十三日、宮崎大会の日。大会参加の為、前夜は宴会もそこそこに十時過ぎには皆床につき、今朝は早朝にもかゝわらず、全員が晴れやかな顔を見せておりました。忙しく朝食を済ませてホテルを八時に出発。会場である宮崎市民会館に九時前に到着しましたが、熱心な地元会員と思われる人達で、もう会場前の広場はいっぱいでした。

何処の全国大会でも多勢の岳風会員が参加しておりますが、今回も又遠くの地に来て、改めて岳風先生の偉大さを痛感致しました。

開会始めからの参加は今回が初めてでした。竹未岳陽副理事長の開会の辞、全員による朗詠の大合吟、そして理事長の御製謹詠、毎回のことですが、私達に岳風会員である喜びを与えてくれました。会員吟詠も、全国各地から集った吟友の熱吟に、拍手で手が痛くなる程でした。会旗入場、式典と続きましたが、会旗の数を見て参加団体の多さに又感激。

合吟コンクールのときは、皆審査員になったような感じで終りまで席を立つ者は一人もいないくらいでした。神奈川からは一チームしか出場しませんでしたが、大健闘、惜しくも次点でしたが、とても立派な合吟を聞かせてくれました。大会も長谷川副理事長の閉会の辞で時間どうりに終了。

会場をあとにつぎの宿泊地霧島に向う。バスの中では皆無事に大会を終えた満足感で、明るい表情でした。それとも思いは今夜の大宴会での美酒か？　来年は福島大会とのこと、皆さんも是非参加して下さい。

（第三日目）　岩崎　恵岳

玉砂利のしっとり濡るゝ程の雨の中、霧島神宮に参拝。境内の「さゞれ石」や四方竹（四角竹）を観賞。

人吉、八代を経て水前寺公園に着く。昼食の後公園内を巡る。其の名の通り流るゝ水は清く、緑に囲まれた築山には、赤蜻蛉が群れ、素晴しい秋日和となった。

次の松島へ着き、バスのまゝフェリーに乗る。船上から眺める洋の景観は見事で、感激のあまり、突如として「天草洋に泊す」の大合吟が起る。いるかはいるかなど冗談を言っている時、波上に白いものが浮上、「海豚だ！海豚だ！」と右舷に寄って大騒ぎ。心晴れやかな海の旅も、約一時間半で島原到着。車中のクイズ等賑やかなうち、雲仙の宿に着いた。

（第四日目）　森田　嶺岳

谷のせゝらぎの音に眠りから覚め、早朝野天風呂で旅の疲れを流して一日が始まった。

朝食後、雲仙の地獄めぐりへと出かける。岩は硫黄で白く変色し、大地が煮えたぎっている様だ。硫黄の噴煙の上る間を、足許に気を配り合い乍ら進む。キリシタン弾圧によって数十名が煮えたぎるこの地獄に投げこまれ、その殉教はたゞちにローマに報告され、やがて島原の乱の起りとなったとのガイドさんの説明を聞きながら一周する。愛野天望台より望む遠くの島々が、雲り空のため視界がはっきりせず残念でした。

何処からともなく朗々と「泊天草洋」の雲かー山かーと吟声が聞えてくる。あゝやっぱり吟行会だなあと思った。

長崎市内へと向い「長崎の鐘」の永井氏の住居跡を見、平和公園を見物したあと、グラバー園、大浦天主堂等、石畳の坂道を歩き、長崎国際文化会館にて原爆資料室を見学し、当時を偲び、原爆の悲惨な光景に暗然とし、胸詰る想いで涙しました。

昼食は長崎名物をいたゞき又市内見物。長崎は見物する所が多く、もっと時間がほしいと心残しつゝ空港へ向った。

楽しい四日間の旅も無事に終って羽田着。来年の大会を楽しみに家路に着いた。四日間大変皆さんのお世話になりました。これを機に益々吟道に励まれますよう。

吟行会戯歌紀行

秀象　宇都宮徳風　誌

青島よりサボテン園を窓見して
（鵜戸神宮に向う車内風景）

昨晩の　寝不足たゝり　顔青し
役をさぼって　ついうとうとと
（大会後の慰労宴での余興）

碩心の　余興の踊り　見事なり
遽か仕立ても　心揃えて
（車中でのクイズ）

到着の　時刻を当てる　懸賞は
下手に当ると　ガイドのキッスか
（グラバー園へのオランダ坂で）

だらだらと　文句を言って　昇る坂
それでも帰る　人はオランダ

吟行会寸描

中村　幸岳

◇空港でハイジャック防止の為、若い女性に肩から胸、腹、腰と撫でてもらったOさん、マッサージしてもらいお蔭でスッキリしたよとニヨニヨ顔。

◇Kさんの、バスに酔ったようだ…の声を聞いたCさん、早速荷物の中から薬を取り出し「どうぞ…ハイ、お水……」と薬壜に水まで用意されていたとは恐れ入りました。誠意が通じてすぐに快復。

練吟メモ

音と訓（一）

○筆者へ、表題の解説依頼の申し入れがあったので、採り上げることにします。しかし、分り易く例を挙げながらですと大変紙数を必要とします。ご承知のとおり詩吟の世界では「迫力ある」吟詠をすることが至上とされ、字句の説明などはあまり関心がない、というのが実情のようです。従ってごく簡単に、通りいっぺんの説明でご勘弁をいただくことにしたいと思います。

○音とは、漢字の原音のことで、本来は一字一音です。例えば「漢」は（カン）の一音だけです。ところが中国は漢字発生の歴史が古く、国土は広大であり、時代も幾変遷を重ねたため、一字一音が二音・三音と変った漢字があります。例えば「行」は（ギョウ・呉音）（コウ・漢音）（アン・唐音）の順序で日本に輸入され、それが三音とも現在なお使われています。行政、旅行、行脚がその例。因みに音は、たいていの漢字字典がカタカナで表記しております。

○訓とは、例えば「春」を（はる）「水」を（みず）と読むように、漢字の意味を日本語読みすることで、これを訓読（訓読みとも）言っています。どの字典も、訓は太目のひらがなで表記しています。要するに訓は、日本固有のやまとことばを漢字にあてはめたり、漢字を日本語訳したものが、日本語として定着したものを言います。

○わが国では、漢字を字音で読むことを音読と（音読みとも）言っていますが、も一つ、声に出して読むことも音読と言います。この二つを同時に行っているのが坊さんの読経です。奈良朝や平安朝のいわゆる王朝時代の大学では、音博士（オンハカセ）の教官がいて、漢詩文を中国人が読むように朗読していたようです。ＮＨＫでもこの二年ほど漢詩の中国語朗読をしています。

○漢字一字の音訓は、漢字字典で分ります。しかし、二字以上の熟語となると厄介です。天地を（あめつち）、山川を（やまかわ）、一夜を（ひとよ）などが例。そのほか、音と訓の混った重箱（ジュウばこ）読みや、湯桶（ゆトウ）読みのことなどがありますが、省略させていただきます。

○明治維新後は、漢字の新造語、翻訳語がはんらんし、それが国語化した現在、若い人達には音訓の区別などはあまり気にならないようです。しかし、漢詩、和歌、新体詩等を朗詠するとなると、音と訓の区別や扱いがどうなっているかぐらいは、一通り承知しておいてよろしいかと思われます。

秋の俳句

石渡　桂岳

蝉しぐれ　通夜の塩ふる　庭先も

吟声が　する会館の　星月夜

佐久間　爽風

房総へ　通う船見ゆ　雲の秋

筆を買う　寺町通り　秋時雨

南部　政岳

秋灯の　李白の詩書く　文化展

磨崖仏　静かに眺む　秋の海

（入　会）

810 大堀晃子（ルビ）　葉山町下山口一〇九
（星　山）（電）〇四六八－七八－六四四一

811 八尾昭夫　横須賀市不入斗四－四
（一色Ｂ）（電）〇四六八－二三－八七二三

812 森永　万　葉山町堀内一〇七〇
（堀内・Ｆ）（電）

813 池田修二　葉山町一色一〇二二
（平　松）（電）〇四六八－七五－二九三九

814 森谷千代子　葉山町一色五三〇－一〇二
（平　松）（電）〇四六八－七五－三六五三

（退　会）

475 佐藤恵山（平　松）

774 梶山茂男（逗子Ａ）

776 坂本美佐子（逗子Ａ）

777 清野正一（逗子Ａ）

531 沼田光山（平　松）

778 秋本　毅（逗子Ａ）